

「リエゾンシニア」が、中小企業経営者の分身的存在として大活躍!②

「リエゾン（繋ぐ）シニア」と 「広島県の経営者」との出会い

広島県広島市を拠点に「精神科病院向け電子カルテシステム」を提供する株式会社レスコの藤川佳應社長は、精神疾患予防分野への事業展開を図るにあたって、情報発信の強化が必須と考え、そこを担える人材を探していた。

一方で、神奈川県藤沢市に居を構え、「広報のプロ」として、物事を分野横断的に繋ぎ合わせるコーディネート力を自認する左近充ひとみさんは、定年後研究所が注目する「リエゾン（繋ぐ）シニア」のロールモデルである。そんな2人が株式会社バソナJOB HUBを通じて出会ったのは2020年新型コロナウイルス禍の8月であった。

左近充ひとみさんになぜ惚れ込んだのか

藤川社長は、出会った当時のことを、次のように振り返る。「初対面の左近充さんから事業戦略について尋ねられ、自分が何を大切にしているのか、事業を通じて社会に何を提供しようとしているのか、思わず熱く語っていました。そのような場になったのは、左近充さんの『人間性』と『経験の豊かさ』に自分が惹かれたからだと思います。また、左近充さんからもレスコや私の考えに共感いただけたと感じました」と

振り返る。



左近充さん(左)、藤川社長(右)

東京でのテレビ番組収録での 出来事

左近充さんには、毎週のオンライン会議や、広島出張を通じ、レスコの経営陣の1人の如く情報発信の要となり、若手広報メンバーの指導にもあたってもらっていると言う。

この春、藤川社長がテレビ出演の折に、左近充さんが藤沢から銀座のテレビ局に駆けつけたときのこと。本番直前に左近充さんがMCの「質問内容」を確認する

と、藤川社長の本意とは異なる構成部分があったが、今や藤川社長の分身的存在でもある左近充さんはその場で機転を利かせて修正を行い、無事テレビ収録は成功した。

レスコにとって未開のマーケットでもある一般消費者、レスコの社員、そして藤川社長とを「繋ぐ」左近充さんのような「リエゾンシニア」が、全国の中小企業や団体の新たなチャレンジの起爆剤になることを、定年後研究所も願ってやまない。

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所理事長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーをご覧になりたい方は、上記サイトをご覧ください。